

図書館マナーキャンペーン

「本を大切にしよう！」

2008年7月7日（月）～18日（金）



図書館資料の保存

図書館の蔵書は、使うたびに傷んでいきます。また経年変化によって紙質が劣化していきます。しかし、大事に使うことでその寿命を延ばすことができます。立教大学図書館では、本の寿命を延ばすために次のような方法を取っています。

(1) 予防対策

- ・資料の取り扱い方法に注意する。
- ・適切な収納、保存容器の使用（帙、中性紙箱、桐箱など）
- ・環境対策（温湿度管理、清掃）、災害対策

(2) 代替策

- ・マイクロフィルム化、デジタル化

(3) 修理・修復

- ・図書館スタッフによる簡易修理、修復
- ・修復専門家への外注

誰でもできる保存対策

< 1 > ていねいに取り扱って下さい。

立教大学図書館には、貴重な資料が所蔵されています。また雑誌のバックナンバーや歴史的資料は紙質が劣化している場合があります。閲覧するには十分注意を払って取り扱い、コピーする時には押し付けすぎないようにして下さい。（コピー禁止の資料もあります。）こうした資料は再購入することが極めて困難です。

< 2 > 汚破損を見つけたら、返却の際に申し出て下さい。

製本の破損、書き込み、破れ、汚れなどを見つけた場合は、返却の際にお申し出ください。修理・製本などは図書館スタッフが行いますので自分ではしないで下さい。（セロテープなどを使うと劣化して変色しかえって資料を傷める場合があります。）

本の敵 Enemies of Books

『書物の敵』(ウィリアム・ブレイズ 著)という本がありますが、戦争、災害、焚書などの他にも、本を傷める汚破損の原因には次のようなものがあります。

(1) 虫・カビ

和装本を食い荒らす典型的な食害は、主にシバンムシ(death beetle)と呼ばれる小さな甲虫によるものです。和紙に卵を産み、幼虫は本文を食い荒らした後、成虫となって飛び立ちます。

カビは湿度 60%以上で発生し、水害に遭った本などはすぐに乾燥しないとカビが発生して変色して本文も読めなくなります。



(2) 酸

1850年代から普及した木材パルプによる書籍用紙には、歩留り剤として硫酸アルミニウムが使用されているために、紙が酸性化し、数十年たつと劣化してボロボロになります。

脱酸処理をして延命をはかる方法もありますが、大量の図書进行处理するには費用もかかり、マイクロ化やデジタル化をしないと資料を保存することができません。

日本では 1980 年代に社会問題となり、その後書籍用紙のほとんどは、pH6.5 以上で抄紙されていますので、現在の図書には、中性紙かアルカリ性紙が用いられています。



(3) 人

持ち出し、切り取り、書き込みなどによっても図書館の蔵書は被害を受けます。また乱暴な扱いによって製本も壊されます。

その他、間違った修理方法によっても本は傷みます。本や文化財の保存は、現在は、薬剤や物理的修復によるよりも、環境対策や予防的な保存措置によって原型を保つ保存方法が推奨されています。

